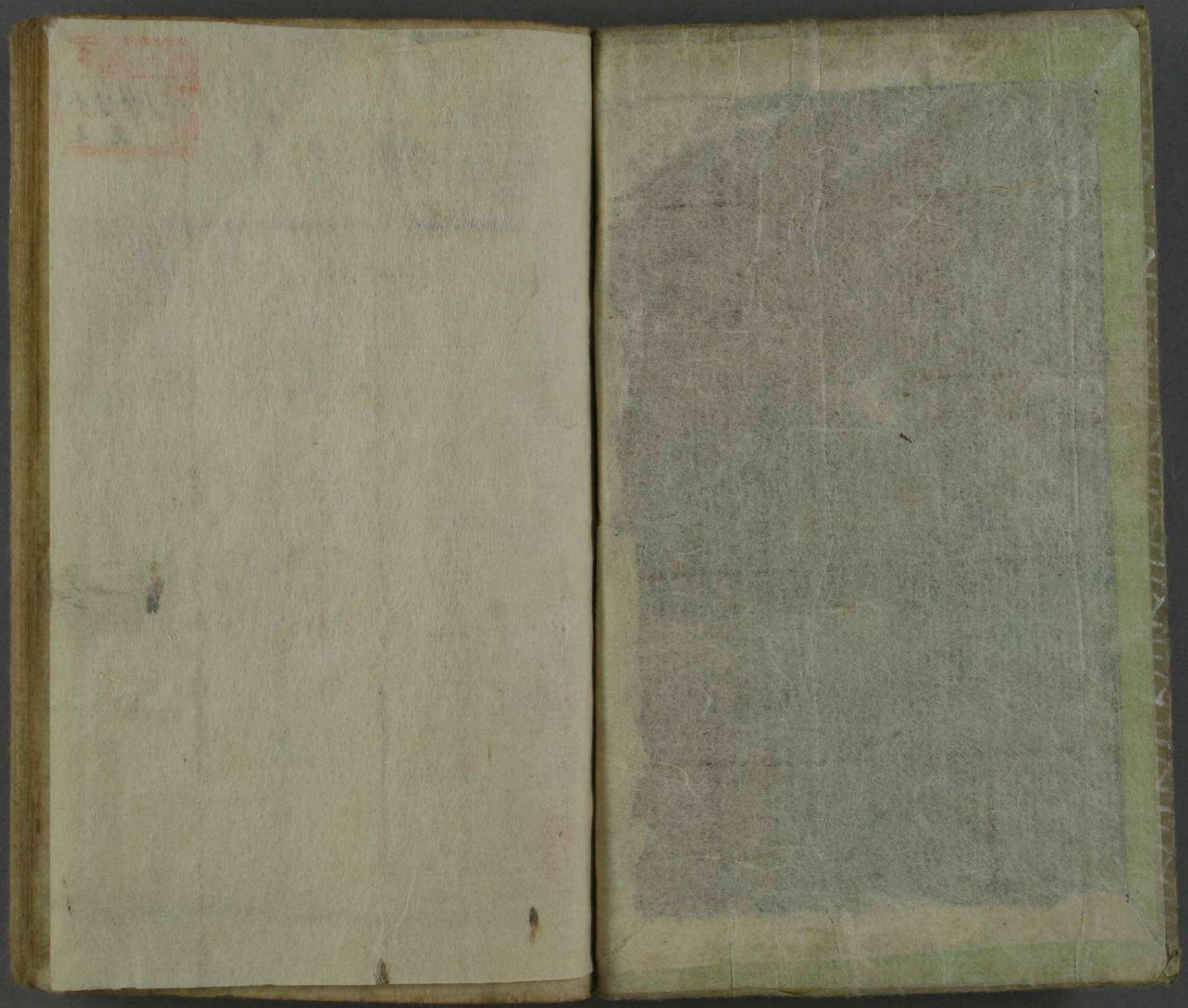
傾城買事情

1435
2



遠へ門
13
1493
2

ハト

のけハトゝやホ屋やーくこのゝ家なこあの
とゝろどがゝりとまるものたゝかうきハ小
ゝせる屋をもちてのまけをーゝなり
たいぐのふきひそとゝ屋ーゝとゝ
○ゑんねりさ手内へ大ゑ世宮わ京中のゆくへ
紀屋ざーゝさ名代のあゝ家
宮年ハ二十二三ーくゝへでゝゝぐとふとんてゝどやホおゝさ
ゝーをくゝられゝうゝといゝゝゝゝは川油でかゝゝ中ゝふゝさ
の髪あゝ書れ田中八太ゝゝ洛ゝゝーけゝさのゝゝゝとこー
油でゝどれーゝ屋だゝりにゝなゝ花金の入ーゝんゝゝゝゝれ
ゝぐれひゝきゝびをゝゝ庶のゝゝホゝゝぐ金
なゝゝゝゝゝびれてたゝゝのゝあゝんゝどゝれゝゝ書を

よんで居る所へ[女郎]たてごとちがらお鬼
いろいろあさろひが目鼻ごちよくあくん
りそろと せいちくあ〜ばちうさんるくをんてちたきゆ〜ゆん
ゆやざ〜ぐふーていうんこうものとさゆくもそうさそうふ
みてゆんさにお染ハひらぞそれゆへ髪のうへもよみぐさわ
うちぐこうちゆんの姿ぐれむくふひちやちゆへの
ぐきとーめる姿うふろとよび伺うこうこうこうこの伺ごーり
らうろよりかさまいぞうことすちのうこの伺ごーり
きんさきゆくうおちバさ〜うりせんとさ〜たくぐぶり
さていぬうるのそひてとるを山[女郎]ニろけ
いろぐよ[ふに]コレい山さんさゆ〜ハ久ドひゆうぶ
ぐきこんいどふぐ源吾さ夏でんござりませんろ[宮]
ヲ〜どふりできこひさゆうゆ梵ざ〜ろんこ

こく[さいこ]ぼめんなきりまりーぜんおひさ〜ゆで
おぐざうまをうなくおぜなるあらちーんと
おちらせなるころていうこきりますせんでおう
らこでぐざうまをホイスあをこくきせろ
づくとおきみりんざゆうざ〜ちこさ〜ゆひ[宮]イ
ちろふちぐろくくこなんざろさいのころさとこ〜
けどめこのさひせろゆうまりーいうら[ふに]ろのる
なぐいつれるアくくく[トつさるのいおで]そらこ〜ひさる[女郎]あろと
きの

いそ　あのぶハモウ何をいひてもらちもな
うねくひきさぐりづらぐョウ　トいふとーわるそうて又名代の社家でるまを
ふいと　ちろちろとかくイヨくかんちゆくく　トまぐらそせハ
ちろちろこんぐんハおひとりく　客　ひぐろハ連
い一切ちあハのさ　ふいと　コレハきろいモレひ如くれ
もまハまんとちろこんでござりまちとマアい
つくひえもぐんぐ姉さそてかの京町い　客
シイコリヤ　ふいと　ウ　ツウンくく　トあるり　客　ひ

をぐーくほハ　ふいと　居ちどから奥社家乃居
つづけでちきよぐまーさやがふのませる客人
で大のなんじゆうやうくんさ　客　そん行まれとと
らぬ客ハはとあゆくくらうよ又ゆのさーれも
あるりんざかちトうぬハとてさ　ふいと　サクーいとやうあとらよ　ひみがく　大さ
ふさゆうさねとこでゆうるとぐるふかけ出
ーさこくとあうくーやーた
トりるれ客とそりてむさをいもうりるけぐらんまま
く一分ぐれろくーそれさくられハぐきよ内くりあんまも

まぜるらかくぐ点こてくろやうみとゐのうちでいろろて
居る宮へつぐ通りるあくさいこおもんきとぐそーてく
ろるとろひなをも　宮　ホンニそろてうれば年年
いりこおろーて　ゆて

ぶりであろうソウひさーぶりぶぐ　トゐなぶら
のろくいをきー紙いをさぐてゆくさいこい　三ッぶらん
今ゆうくー一分くをとるるとおりひ　ふいこ　ふれい
くらひあんどうぐさ　トまきらー　ととのろうをむい
あれでゆぐて鬼紙のろとさぐー　ゆふて宮のまりくとうねゆうすて
一ぺんでまろくさゆまくぐりれ大小を出ー　宮　これいあぐさ
みよこーらくうぐえゆれソレこふまるると色ゲ大
の月ぐやこゆもろくと　ソレふれ月ぐや　トかう
ーやく

ちるるうらここまいゆれぐくふいこいあてのつちぐそぐもあい
そうもこそうもつくさそてゆぐりひとおろくさうるふひ
　ふいこ　ハイこれいトいろくさぐろうちーくなのとこ
に羽ろゆがトたるゆーとまぐんきくうけてそげふく
えてろる宮もひさいこおをうもろてえるの
させんと思ひーとろちもあてぐぶち
ゲひさてうねひくりよかくり
ふろ
兎も居をとうぬ家と二ッたのみふりのゆや
ちぐ　宮　アく　新ぐうも
がトえてふぐんよめくろふかくちぐひホイこれい
ーてくるりくまるのーゆードをあけ
そくうトスふ赤ふるのりつくあのれんぐりとるるぐらた
あのくぐりくるるとうんぐりねくりをくこくさ
アあくびみ六十夜五のうちさつんでゆく付ろうゆうく
らうくをえくりぐとうふぐうアのまあい今すあくとる

あくいとひでこせるもの後ろひさうぶり　ゆさゆり
しておれば　のの　ゆくゆくしてむかしくむかしのごとくなく
いろいろ　はめいさて　皿のごとくあり　おひとつひいろ　名代の宿
あるとうくうくうせさんてさらさらふいごてあいよてくむねの
うちふいうんと　出りかつてさろをあんべんもやくしてあるうち
又いあーとくくーてしやうーどとさらもとおくるゆえびつく
アしてて又ねさかりをれば　いのまて　油とついでめ
ゆそやこさくられぬごこうよわさて　弟ちあるかさて　屏風ひ
こさのけてこうれかばちこさせのよごれさかり　油一まいこさ　粉
そういろのろふかまて　粉の引出ーとまるらふーくと
うくてそれもそぶー　紙のこぶまれ　ところーくまうふえこぶ
ちりとくこたぐらくくいるく　移てみるとかの　宿つめ　こい
こせろれいえて　ハッロのアのろ　宿コレくゆきてくれく
ここさのトとうれるぐらう

新造　うくうくうくぐれだとろぬくうくつう　再こんどん

よくこんーせくうくつうスウ　宿コレくとれぐ　羽織を
出ーてくれく　図　時くくこぐ　分　ヨア　浴さんどこ
おむなんさくく　宿　ちひ　ておれいもうくう　粉を
くらーいまぐハッでござんとい　宿ウン　ニアたん
時でもよいくくるアあく出ーてくれろ　図　マアお
まちなんーいくーとちらんくんとい　宿
目どこちらくくみそ　ぐれくくこひこぐとふぐち
らうくくあひくさのかくくくとちーせくまくこれ
じくんさんこの引出ーとくくとくとくーぐ
ぐくろひーてくけ出そむくふいあひくさのかくくの

おくらわすうまんとかんしゃくをおこしたりの
こゝろわ平気でまつり 図 めーいまアるんぐ〻今
きぶん 図 やうなーいかどれがきんくさるまーどやか
いやこひかめざひひぐんげあるげよふいこね
うねがやうなくさ女子はいふちりこね
アアワうひりのこまとれがのとあるさせちちや
あのくるとこまんていねねうくるむるみ 図
それぐんても用ふがこうるふぐぐんをこういえ
らくらやうくさ 図 用ふるく ちはもいくねるん

でもくるとれげ赤しでとれがかくるれだが
なんとこふりのざとこくるみーとらうトよひのうちの
むーやくーやたらちかりけりたるむる 図 マアきるれーてくん
たんーみのきゆく流がゆうさーうむぐんを
用ゲあんなんをあちおんぐゆうふりくーナン
をかからマアちょんと義へおかなんー 図
アおいひあんをとらマアおかなんーショトおうむえ
ふひきおろてゆさ
糸のゆへきろくさせ 図 ちーいとうんるころひ白ぐョ

トヤウ[illegible]ヒ[illegible]ヨ[illegible]ヨ[illegible]ヨ

図イヤ〳〵どふあらうてもゆるく〳〵トそんをれいんどりくやどゆうふ
ある 図 アヽくさろいん人ぢらゝゞョウ トあつろうとくさう
きそのきくよこ
みさゝくろを 図 コレいやらゝふるようてくれ
くろうゆやわつひ 図 それわどろうゝふえ
ホくハ ウ トこくたつくさくよで
くろうをうにみロ 図 ヲくいそくへら
わうあ井アくくん天ゆれをどふさる トのろく
なる
図 ちくくちづまくさと思ひヲヤだろうゝひ
びゆうぢをひさまゝ
今れさうぢでゆびの脇とおゝくさくふぢ

評 二日は夜の名代の岩くろアゆうくん
ゆも色男かくんとうゆれとるたゞホゆを
おそ三舎目の宮くそぶ男なりまうれぢも
くちゝれさもひゝい宮とべくさくとくて
長ゝ角くまづ三舎あれ宮をつくゆも
くゝや 庵花の三あもあるてくさゆくん大
の年紀なりはくちを一あハゆりくゆの附
ぐりとくくー二分わホ百和尾の内 金ホ

ゑ〜二歩はかゝなやれたゝひ一分は
あんまの仏づけとゐのうちでハさん用
云ゑ〜ら他人ゲ〜ハとハゝまれあるこ
とべうんしんたりさぐりてかのゞんまあ
つゝらあいてこんせるゑまるゑーいろさ
い人ゞとゝろ〜ときゑるゑうゆてたり
く色男にゑれるたりでゑーゑゑま
るふもさゞゝらゞりて出さぶる歌

二ゝひぢうでハゆくまゝるゝたちたりうとゑ云
ゑゝふゝそゞゝーにーてこゝちの釜ゑする
とゑゝりゝるゑありむうゑづゝくまハーていい
うゝゝゝたやゝたゝゝゝゝ或人曰此ゑゝハハ
歌の白むくも行で又何ゆゝ深て二ゝゑ
ゝゝれとゝるたゝちゞゝちゞひいゑーゑ其
ゑでハゆゝれとゝゝゝ宮いゝゝでもゆくのゝ
或人又曰此宮ハげのーやゞゝ味せんとひく

とかるゝ[illegible]せるで[illegible]をたくく人

たりとゝゝ

○そへくさとるゝ 中三の女郎花やの二ての色男よあゝまちうち

右草稿 先年わりとのくゝも事 繁りれて

蝶数のゝ多くなゝんと厭ひ[illegible]者く

追而後編 ゝ著とべ

○真のゝ 世界ハ大ゝ世世ゝ多ゝ[illegible]ゝ

若者 らゝゝゝ さゝゝ 今人 湯をちまひまとく 上ニりい

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

女けいしや　小笠の民部殿　ちんくうこて　敬ふり
すくまりたりこん　廉通いたちんトのうえ　茶や男　客
人の下人サ　けい　コウ　よんこ　五五のとき　ちんてひくうたとて
こりゝアいくあぐ　ぐうげとかく　云通言ケウ　けい　何さまん
ぐいぐうこうふぐぐりやそいんそくに河東の仝
ちさ　トびうちはぐけうるぐんく茶やの男とよ
びやそこれいけいーやみむらいのくんくさのすり
けい　ちくぬやり　とーて考る　茶や男　きそくのあのみとモウけく
しませうう　客　小戸で　アウけくーや　茶　ときふ
モウ　筆　とちすくーふくこ法よーやちやう　よんこ

チト　幕　ふーてもよらうう　ト云れふーそくく
主ーこ味せんの三の
糸バツチり　けい　モ　こ通ふ糸でこぐりまちてね
ときれる
ト云ふぐら一ト二の糸とあるめて　ちまい　筆と
らうくつき　ぬまふ　云ウまてせうぶ　ト　よんこ　けい
さやうあらけさぐんよふ　よんこ　かぐり　おいらんお
大事
でくーにたなせくーよ　茶　おいらんへかのあげくん
ぐよく　漬　きしくよ　ト云れたぐおの　なまづけ　ちんと上ラ
中やちやう　けい　フウ　とらうと　客　うんふはらうう
く　トきせる　とちてく　よんこ　ハテ　くうきあと　玉こぐ

案ヨットこく〳〵さけて立中〳〵さ ふんこ これハ
おせるト ト云ふく 屏風のそとゝ 中居給ゑこび 禿 髮を毛 多ゑ
まきつけ丈ケのこぎく ふいーきせの布子の袖あげよー
さゆうよりどれさるを云袖と羊〳〵さ〳〵ぎうむでの
禿とゝる ひネぐう なんざといへうちやつておうう
せくらんさのせとみやァなうぬくいトさる 客
わ飛いく不くつのでくりや トを茶ゑん 亥 酒ハ
よーうんーひさーいんざよ 客 うつちゆう
てをりく居てくうう居いるみざちゆくた

ぎや 禿 おようーるあんーみトおいゝんの色を 客
つげよ 亥 そんるうおゝーなんートちゆう
ざとゝぎれ るわどつぐ 客 のゝそうよまるを 亥 させるでうちおとゝそ酒
袖で灰をあふ あくぬくえちづくざトかぶくに みまい物そ
客 ぎなうぐう
禿 それごらうじゝートそちらを ちんも中 三よせ
それのむくを云ゑ一まいをしみてあそびよさとと
えてゝ多りゝ白粉をきりそこうわハまざを
ろいなーーゆうどをまモレへうけるなれバれを
ぎんあけてうわを出ーー
ゝうざそふでぐざんちねおさのーみぐね

うらやましいヨウ（ト云ふなどうらやましい枝えよりたくさんなって居る）【客】山
天こ乳のいゝふ居つぐけも乳ちぐひのさくで
ぬく【ろうぜい】そこが赤んどつざんとつかとたをとづけぬ
て居る女 【女】ふとところをぐってとりゆりヤア ふうら
郎よ申る
里ぐねぬーやァうせく【ろうぜい】いくそふへ
出番の乳てやくくさ【女】ちゝろとう
しろをむひておうせあんーぬーわやァよ
からが似合よ【ろうぜい】そふいうちやァ結つぐうを合ど

つるひけどもト云いあーさいれ七月て
【ろうぜい】いくモウ（ト良を云ふあてモシ汐い月夜なろう）【客】モシ汐い
ぐとふひあんくぬーが居あんとそこい
ーたうう月ちまひを云うけて来うーさ
んとおこぐんなんーヨウ（ト云ふ小ちまる）【客】ちをを引とあ
たちうとのそびかせくを花がちる【ろうぜい】
モウあんかうーえ教りんくをあうせくをうひ
のうト出申くくくつてちちもの【新造】繁ぐうアうぷかひ
をちへべくくと付あい

びらうどのようなるもモレイおいらんのところ 所 [効]
布ざと長さ六寸
ふまんて居る [形] モレイおいらんの西く [効] なんぞる
ちまの [形] あのぬ物ふさんがあんぞ
くんなんーッサ [効] あんぞみつくろうて持
ていきあんーま [形] 紫やのおくりおかぞくう
[形造] り手モレイ れ [ぐ] 心なくうそく紙を
一まのおくんなんーる [効] いくぜんるき
くるをとりてくる [客] サアりでいき

ま [形] おありがくふぐりいを [卜出やく] [ら] [ら] て [禿] モ
えさえさんがあんせくさきの長物を
どーあんーくさ [形] 廊下 [ろうかん] 橋ふ
てをあくよ△けくてえやうせをーくさる敵の者
おどろうせうまさろぐーくるくひるこせく出れ耳を
ぐ三味線の新造さぐぐさをひきぬてすべて女ぐや
のひるこせけふい夜かけようもうくて二ういうそさ
こくあろれるりのたり取代を長いひうそうさ
屏風の中は二 [客] ユウ 残 [ぜん] 勝ぐの家や男くみいでく
人さくむうひ
ぶまめくまそむひそていくさぜおれは羽織を

ぶんごんて亜うらぐ 女 ワレアんあんーなそ
この内の着いまちるふくろてなとノあせんよ
あんがらのおろぬーゲ旅合ろるろて伝
ろいきくぐろねくといてもあんまうぐん
きんでごぐんまちるワうちやくゆーくろ
てあうんせん 客 そふ云れでもあまめくそれ
いとうらのくらぐ 女 伝さお笑なんー 頃 この
日い生義の影造流ぐりてもいんそ神

がりんまくさそれぐうら 附金もてくく乳
とうけてとくうちやァぐぐんせんぶぢう
もりうちやあそこのうそで二変うんーあく
ぐおとりんーく 客 うちゆうてとけくま
ゆくのゆうの一りゆを云りのんねくうけでも
すあべぐふでもなる 女 ホンニ どら役おり
ぐぐぐんまとく 客 三十五のうくあるりきの内
ぐくこ二うくなぐばるうちやァねくそれ

ざうら居づけるぞんまアあせうちふ
ちづと二十やこ二十れ金ふたまるとんお
れもちろるくいなんさトおー 女 うつむひそ
やわ考(くんく)きべくんぐづる往今まで紫(くで)まて
遊びつけなんしうらかれ分ふなんく
していさぞおりーろくぐんとあくそれと
いのも皆ワちゆくさぞふろうざんーやう
ねくものそうぐ化きんとうく 客 愚(ぐら)蒙(ぐも)ろ

とこりのぐまぐぐ上敬(けんぐ)尚をうけて夢を
見てもてあくと一ッおよ居れべほくまうぐ
ちさぐ女帝とこりのく 女 まぐワさー弦女
帝とこりて居なんをくワちやうう
かこさんよなろされで居をりのをちろ
とくふびんぐころりておくんあんーとれく
そをとそんなちうちんせうちうちがを
るひうれ夜(やぐ)具をやきべセまいぐうく

でぎんせうそてかの若人の和らうも
こまいぐらゐわかるまづでごぎんさてかよ
もものくらゐわかるわづごぎんさて拵を成
告
うんかよりやんまさらねーもちろと拵合
云ゆんしてせめて半ふもおやんゆんしねー
ゆへあらけちぐ身わどふなりてもよう
ごぎんさよーや幸を入てもちんさ紙さ
嘉 ホここそれほどよろしてくれるこころ

い死でもワさりやアちねへちさづマアなり
ふけこころちを拵合してまんまうからみそ
上のお待ん様よーやう 女 ちろともよいらようう
ぐんよ頃日もやりまん流ぐさんちとよんで
ちさらぐと見見をちのーさぐ人の見さんを
ちひきされるくらわたらねーとかうい水
身よいーんせんさんちと孝さ母さんとさく
見えるさ孝でぐぎんさりのを頃日も母さん

ぐるしいつそやせてさいて涙とこぼ
〳〵よ中れ月でもいつちよへなのきれけつ
て居ンまことさハテのり〳〵せいてよりぬくとれい
ゆて〳〵ちらぐくとかくごろうして居ンを命ま
でいうつんせんつ系園（ひろうち 姫路やさ ひでのりのいえぞく）女アモウ
いやり〳〵伺うふつけて頃日じやア一日もよ
くこゝを出さふごぎんさとおン二ゐ〳〵とこゝちち
い要像（あくえん）ゝこゝのでごぎん〳〵やうよそてお母

さんの病気（びやうき）いごふでごぎんさゝく伺うふとう
まりぎれてヤンせるんぎつをれぎよ持（もち）てい
つておくんなんく（ゐの）内さんのお張護番（ちやうごばん）
を戴（いただき）よやつておきんちさよ入谷の鬼子母
神さんへもがん（願）をうけんておくひらら
精進（しやうじん）をしんさいつて昔（むかし）ぎよ園あれも
よくくれ子孝（こう）りのぎお袋の病気もお
れぎるゆと若旁（くろう）ぐ伺てのるゆぎそれよう

流して居るみぞとゝ　ホン　ニヤのく　男もあて
ねめぐ　女　いろく　おるのと　男ひとゝとゝと
おろよろこもよく　死ゝふごぎんとよ　卜男
のろのくつあさひまくろこをまろ　ひあこぐたろくゝそろ
ゆゝとくこゝびの方ひるあそびの男のさゝ　死おゝく
三指示　男ひさゝ　ちゆきのうたるゝ　ホンゑ
ゝいあのねぐとれとかさんが　男　アくぐらぶ
あゝひでるさゆ　アくゆのたるのゝ
ゆゝうさいんゝさとてうゝらねるぐ　女

ホンニとれもそうだこぐんと今ゲのぐね
でごぐんとねゝモシへ　鐵　ぬゝふねぐゝさ
羽織　ハゝとゝらゲ方うゝらとゝらくてやアゝん
ゆう　男　ウゝとんたゝうマアとふゝて金て
ゝりや　女　ゝゝゆゝくゝ又ゝがワゝふぐ
ぐんとゝうゝ　男　ゝんとゝう　女　ひくふとのぞヲヤね
ゝやアねゝんとゝうくをきたんゝく　トゝゆたたこのけ
ゆゝとゆゝさ　男　けゝまむ　エヘンゝくゆべゝうまん
ゝけゝう　せゝんゝう

ぎりともちがねくらうとかスね 安 いやぎよ孫
しやアちがねくよだんよ孫あんしるサア目
とのきたんしく 丑 コレサおがむ
くらちらと孫らして 安 そんあら孫まま
ちがんしートきよてう しらむく 園 こうあまんくさまん
あらねく孫くといひ出しちやアスねく
コレあぜこねくよ逢はせこうらこぜトひきる
安 こうこいふぐらなぜあれさせてくんなんしこ

トきの枕のトくらくらくら

不如べーは身よりなりても新郎舞妓と
よびいさかが中三賈の孫なり云ー茶
屋にたらくとちよ屋ーとふなれへまぶ
ひの中まへ(傍)へもあくなり参もあ人合
のワるげみあぞく勇ゐだらう出てよ
こうとあうよたりいつとあくを者の
好ふ食物も好よりその男れ癖を
がうるのたり又いかれ客ぬ不

勧進くしたまひ孫よい猫客ふ成
平ひよ身ぼまりとあり級老板板や
傾嘗が書て呉ふたれがあを物ひへ
増り世界よへ女も男も言さやうお乱
よなり愚痴よばりなりて人だらう
服ぎうて来くけりく面白く無ー
女命れ方ふもちと肉よも居
つきなんーあくく呉ふとー嘗乃

分うしも陸奥かれ宮を陸奥あさせる
ゆうにをとあうえうくゆうとあるぞあつ
て如布も敷しと聖育ハあさひぐ飯
さくも咎うぶて役所ともひくなり宮
もうちくううても庄持佛の阿弥陀
さ為まうでゲ如布れ新よんゆるすのも
伝のレ所ううんてハ馬廉らしくうん
ゆもどうそのみよなんてハりけとも分

理屈もなのうづさう侍ゆされを捨が
うえへ出るの迷ひなりと双岡乃
あれりのも出ぶ所のうぶぞや

四十八手畢

予訓よろこぶ作者と
世小冊を速終の原
時かと学うみ
よろこぶ

為り 北未
つくり 愛の
扇一哉